ふるさと考古歴史館 春季企画展

殿(とのお)様(さま)送(おく)る祈りの寺と墓(はか)の標(しるべ)

Family Temple of the Shimadzu Clan and Grave Markers Made of Yamagawa Stone

～鹿児島市内遺跡の発掘調査成果展 2024～

伝・福昌寺鬼瓦

2024.3.19(火)▶6.16(日)

関連イベント ※無料・申込み不要

展示説明会…企画展を解説します。 日時:3/20(水・祝) 13:30から30分ほど。

企画展Q&A…学芸員が展示室に常駐し質問に答えます。
日時:4/21(日)、5/19(日)、6/16(日) 全て13:30から16:00の間。

[開館時間]午前9時～午後5時　[休館日]月曜日(休日の場合は翌平日)

[観 覧 料] **無料**(ただし、常設展示は、小・中学生150円、高校生以上300円)

鹿児島市立 ふるさと考古歴史館　〒891-0144 鹿児島市下福元町3763番地1　TEL(099)266−0696

～藩國第一の巨刹なり～
そう謳い記された寺の跡地の調査譚

今から630年前の応永元年（1394年）、南北朝が合一し、動乱が終息に向かっていたこの時に、玉龍山福昌寺は創建されました。南九州の地を領した島津氏、その菩提寺である福昌寺の栄華は藩政期になるとピークを迎え、薩摩藩の地誌『三国名勝図会』における「福昌寺」の項は称揚の言であふれています。しかしながら“藩國第一”の威容も、明治２年（1869年）、新政府の意向に端を発した“廃仏毀釈”によって姿を消すことになります。

時は流れ、平成２年（1990年）、学び舎が建てられていた福昌寺跡地において発掘調査が実施され、寺の入口である山門の跡や寺院特有の遺物が発見されました。以降の調査でも、各種遺構や遺物が数多く発見され、往時の復元の一助となっています。また、宗家当主の墓標に利用された黄色の山川石製石塔が並ぶ島津家墓所においても各種の調査は行われ、その成果が令和２年（2020年）の「鹿児島島津家墓所」国史跡指定へ導きました。

今回の春季企画展では、福昌寺跡でこれまでに実施されてきた発掘調査成果にスポットをあて、当遺跡を語る上での様々な視点（島津氏の菩提寺、薩摩の曹洞宗本山、上町地区の土地利用変遷、寺院遺跡における物質文化など）に即した出土遺物や検出遺構の写真、分析結果などを展示・紹介します。

墨書「侍真寮」焙烙

「龍門橋」跡

卍文瓦

近世墓地副葬品

金箔土師器皿

石組墓

鹿児島市立 ふるさと考古歴史館